

高等学校における日本語指導の在り方に関する検討会議（第1回）

事例発表

「千葉県立生浜高等学校の取組」

日本語指導員 仲江千鶴

千葉県立生浜高等学校の概要

全日制普通科			2学級	80名	
三部制定時制の課程	普通科	午前部	2学級	66名	「日本語基礎」
		午後部	2学級	66名	
		夜間部	2学級	66名	

定時制在籍生徒数 (2021年5月1日現在)

外国につながる生徒
80名程度

	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
男子	98	107	84	34	323
女子	77	81	68	20	246
計	175	188	152	54	569

日本語基礎受講人数と出身国の推移（平成27年～令和2年）

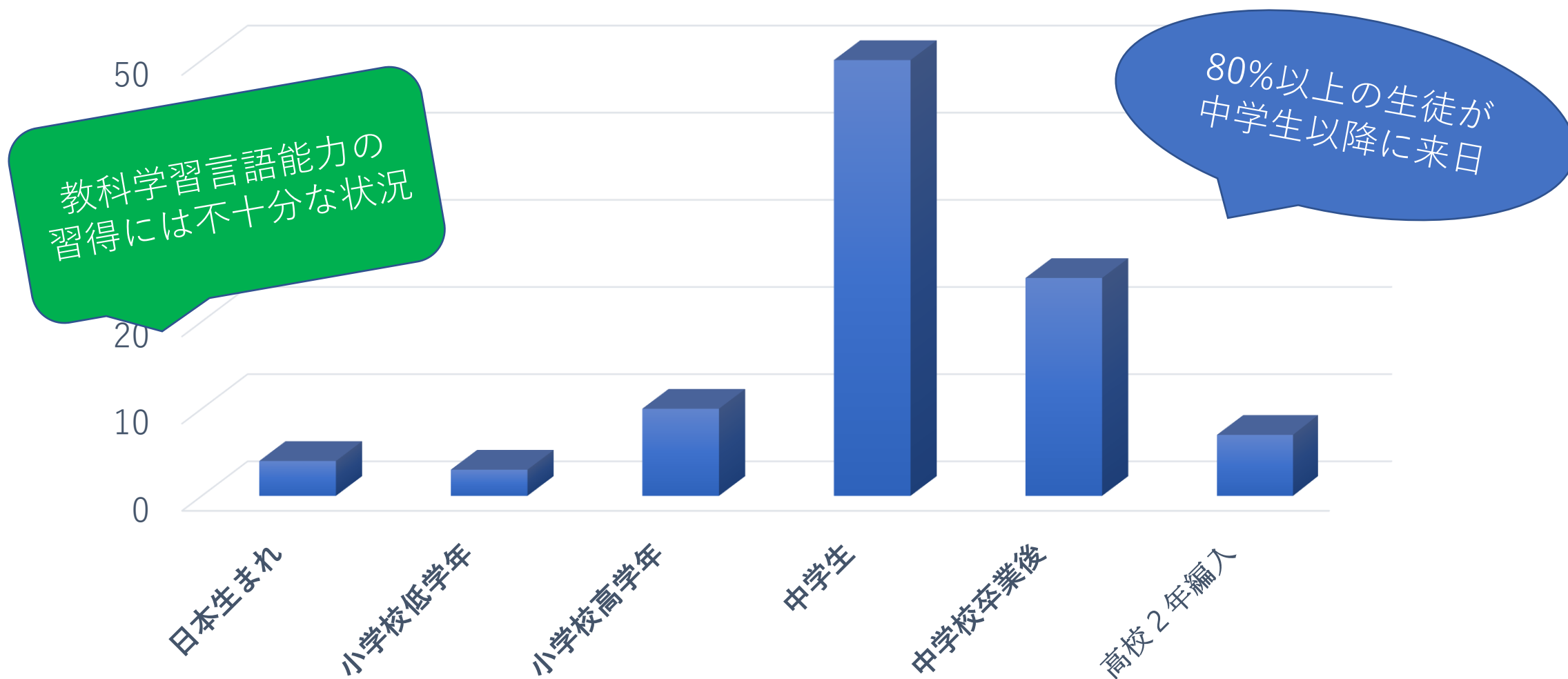
出身国 年度	フィ リピン	中国	ネ パール	タイ	ミヤ ン マー	イン ドネ シア	アフ ガニ スタ ン	バン グラ ディ シュ	パキ スタ ン	アラブ 首長 国 連邦	エジ プト	ジャ マイ カ	ペ ルー	コロ ンビ ア	ブラ ジル	日本	合計 (人)	
平成27	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	10	3 か国
平成28	13	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	18	6 か国
平成29	7	4	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	5 か国
平成30	11	7	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0	24	7 か国
令和元	6	4	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	16	8 か国
令和2	4	5	0	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	16	9 か国
合計	46	25	4	5	2	2	4	2	1	2	1	1	1	2	1	1	99	

人数の増加のみならず出身国も多様化



様々な問題が表面化していく

日本語基礎受講生の来日時の年齢（6か年分） N = 99



生浜高校の取組

外国につながる生徒への対応

- 学校設定科目「日本語基礎」開講
- 外国につながる生徒支援委員会設置

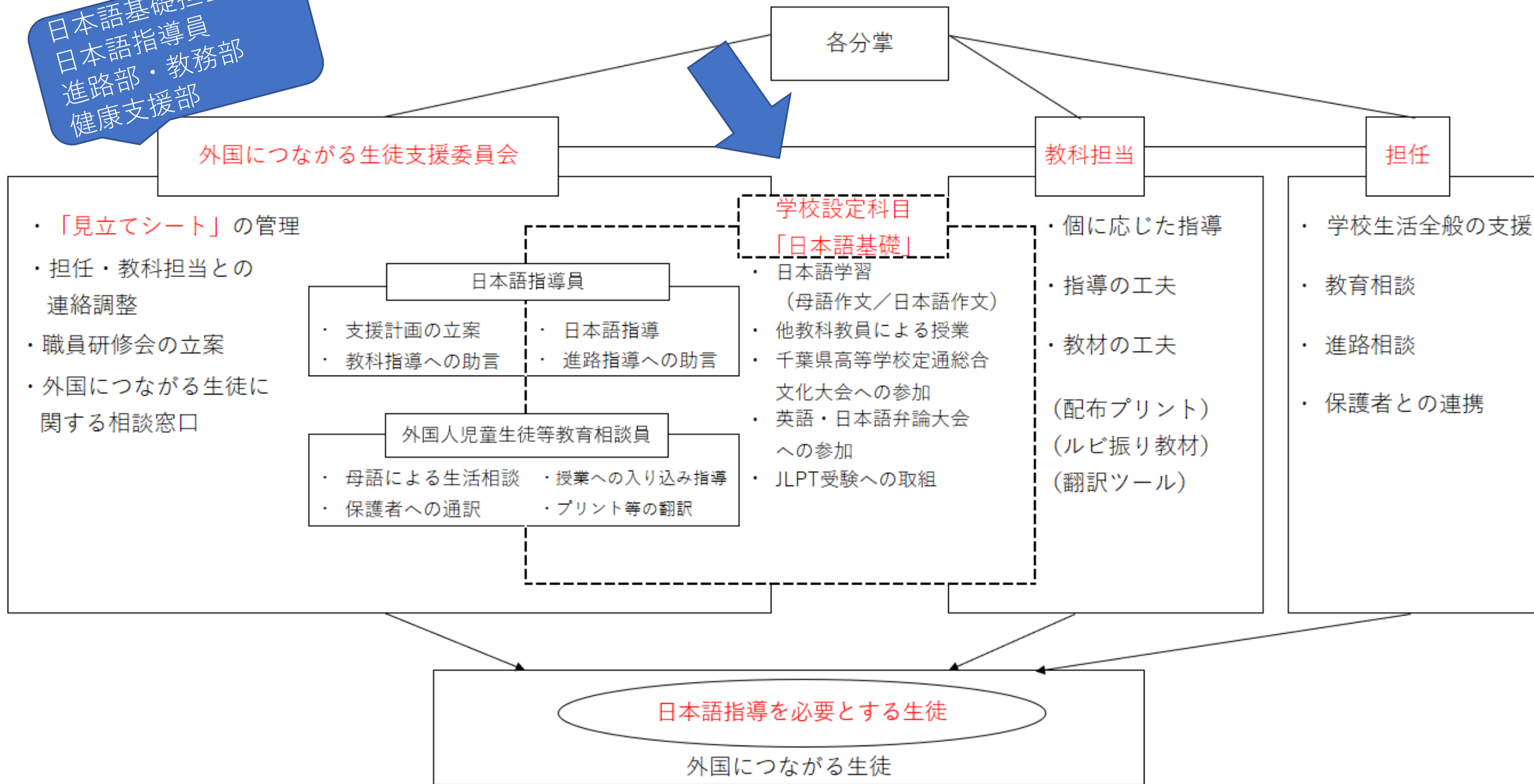
文部科学省委託事業（平成31～令和2年度）

「多様性に応じた新時代の学びの支援充実事業」

- 各教科の授業における取組
- 多文化理解教育の充実
- 生徒会主催の勉強会
- 進路実現に向けた指導の充実
- 「見立てシート」の活用
- 情報の共有化

外国につながる生徒への支援体制

日本語基礎担当教員
日本語指導員
進路部・教務部
健康支援部



外国につながる生徒の学習背景

「日本語ができない」だけ

⇒ 学習内容は母語では理解できる。

「母国でも勉強は苦手」

⇒ 日本語の問題だけではない。

「日本生まれ日本育ち」

⇒ 母語と日本語の関係は？

指導の方法はそれぞれ異なる

日本語基礎受講生の現状

「母語ならできる」と感じている生徒が多い。

日本語で「話すこと」はある程度自信があるが、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」は自信がない生徒が多い。

日常生活で母語も日本語も文章を書く機会がほとんどない。

生徒が「日本語が書けるようになりたい」。必要性を実感している。



日本語と母語

日本語基礎の授業では表現活動（作文・スピーチ）に
重点を置く

学校設定科目「日本語基礎」

- 週1回（45分×2コマ）1年間⇒2単位
- 教材：テキストは固定せず指導内容に応じて適宜選択して使用
- 特徴：生徒の言語リテラシーを駆使できるような環境を設定
外国人児童生徒相談員（中国語・フィリピン語）適宜入り込み
IT機器（通信アプリ、翻訳アプリ、ポケットークなど）の活用
- 内容：作文（母語／日本語）／漢字（JLPTレベル別）／文法
スピーチ（事前にテーマを与える）
出身国文化紹介（文化祭・定時制通信制総合文化大会等）
英語・日本語弁論大会への参加（希望者のみ）
- 他教科教員による授業⇒「日本語基礎」と「他教科」の連携

日本語基礎と他教科の連携

日本の災害に関する学習【地歴・公民科】

防災に関連する日本語を身につけて、災害が起こる前や災害時にどのように行動すべきかを判断できるようにする。

日本地図の学習【地歴・公民科】

日本の47都道府県の名称とその位置を身につける。

日本の気候・天気に関する学習【地歴・公民科】

天気予報から天気や降水確率、最高気温、最低気温を正確に読み取ることができるようにする。

場面の状況説明に関する学習【国語科】

日常生活で使用する語彙を身につけ、日本語で説明できる表現の幅を広げる。

食品表示に関する学習【理科】

食品表示に示されている内容から、栄養成分名とその機能、保存方法、賞味期限、消費期限、アレルギー表示等の情報を正確に読み取ることができるようにする。

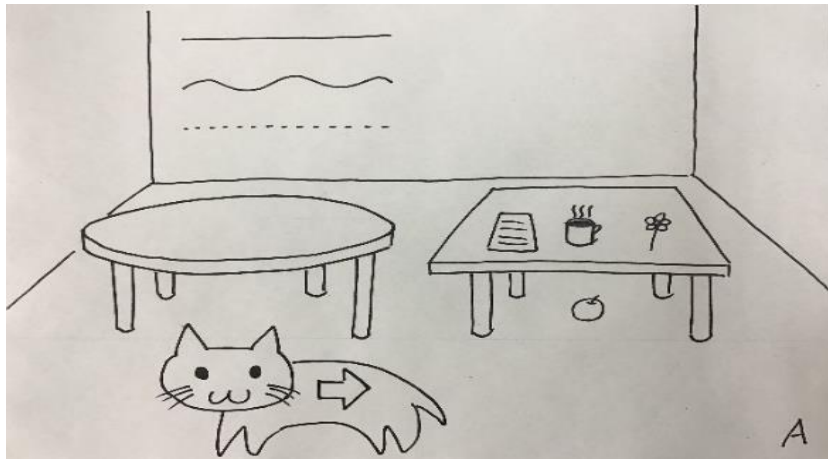
知識構成型ジグソー法を用いた協調学習【算数】

他者の表現を借りながら自分の日本語表現を洗練しつつ、日本語を用いた問題解決を行うことができるようにする。

日本語基礎と他教科の連携

場面の状況説明に関する学習 【国語科】

○身に付けさせたい力
日常生活で使用する語彙を身につけ、日本語で説明できる表現の幅を広げる。

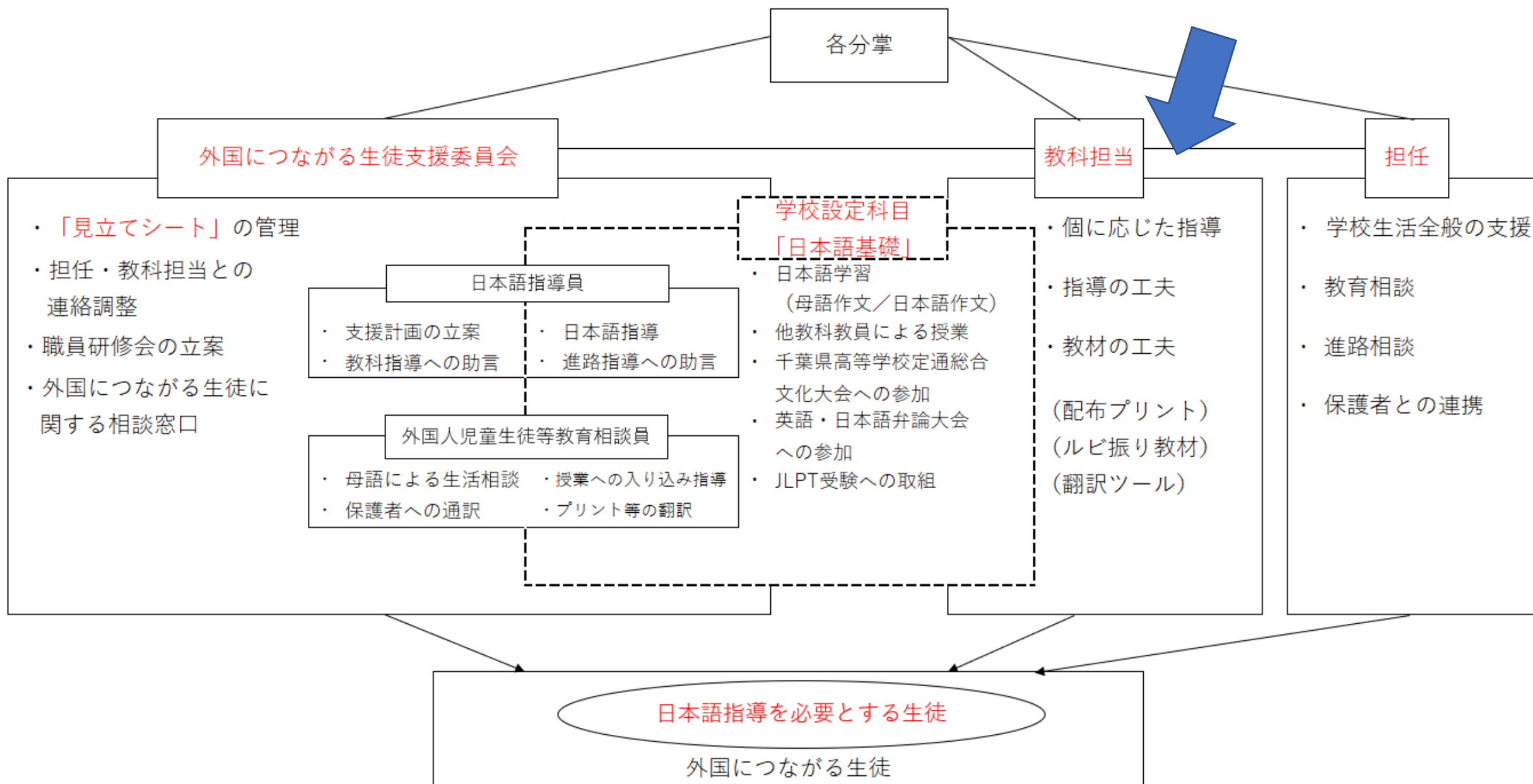


食品表示に関する学習【理科】

食品表示に示されている内容から、栄養成分名とその機能、保存方法、賞味期限、消費期限、アレルギー表示等の情報を正確に読み取ることができるようになる。

「あなたはお菓子の箱の裏に書いてある日本語がわかりますか。」

外国につながる生徒への支援体制



各教科の授業における取組 1

現代社会（日本語指導を必要とする生徒5名、その他の生徒32名） 単元名：受講期間全て

事前に予習のために授業で使用するプリントを配布

授業後学習内容の要約文を配布

化学基礎（日本語指導を必要とする生徒5名、その他の生徒32名） 単元名：元素とその特徴

周期表（日本語版、中国語版、英語版）を使用

授業を平易な日本語でまとめさせるとともに、各言語で説明したプリントを必要な生徒へ配布

コミュニケーション英語（必要とする生徒10名、その他の生徒11名） 単元名：Living with Robots

英文を理解するために、英語が得意な生徒がより平易な英語に言い換えることで、日本人生徒が

英文を理解する手助けとし、英語と日本語を駆使することで、英文を自然な日本語の文に完成させる

音楽（必要とする生徒10名、その他の生徒11名） 単元名：伸びやかな発声方法を身に付けよう

「カントリーロード」を英語と日本語の2言語の歌詞で取り組む

英語と日本語のそれぞれの歌詞を教え合いながら交流を深めるとともに、歌唱について振り返る

書道（必要とする生徒4名、その他の生徒3名） 単元名：漢字仮名交じり書の

年賀状文化について理解する。外国での新年のお祝いについて理解する

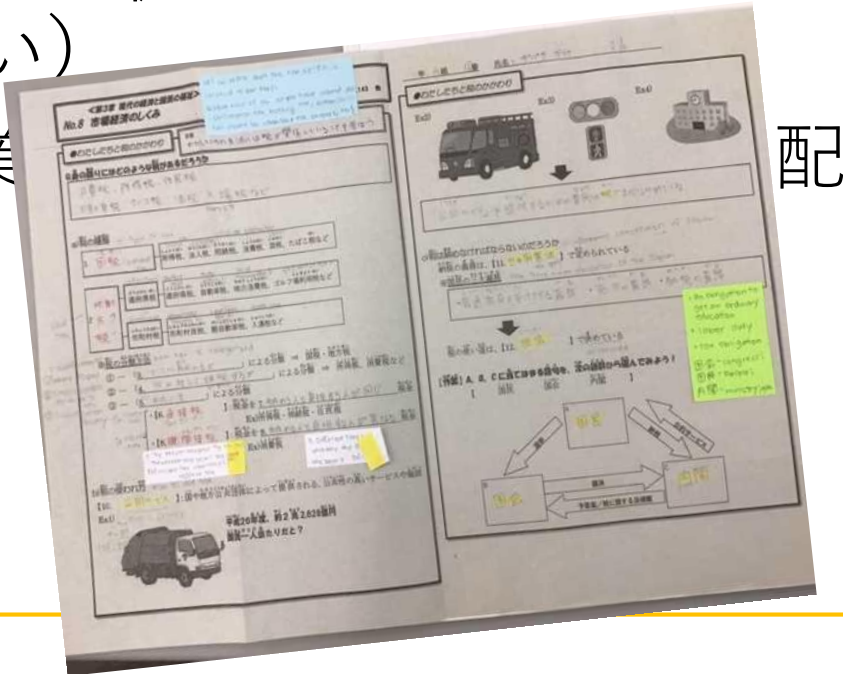


各教科の授業における取組 2

IT機器(翻訳ツール)
の活用

【現代社会】

- 予習のために事前に授業で使用するプリントを配布
⇒ 希望者全員に配布（外国につながる生徒のみをターゲットにしない）
- 授業布



配

【コミュニケーション英語】

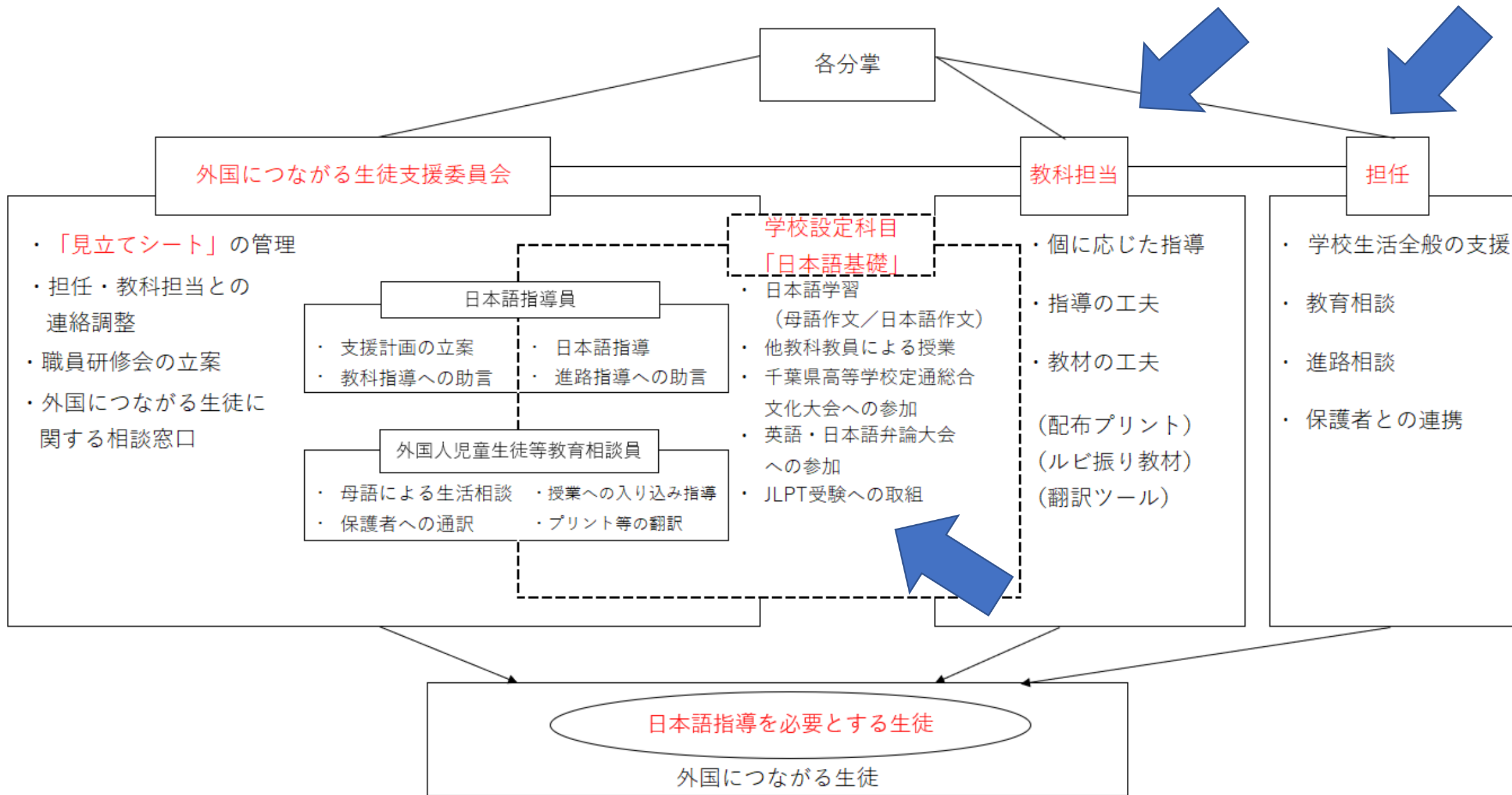
- 英語が得意な生徒と英語が苦手な生徒が協力して、英文を日本語で説明する活動
⇒ 敢て逐語訳を目指す

- ◇ 英語は得意だが日本語が苦手
- ◇ 日本語母語話者で英語が苦手



苦手な言語の習得を目指す

外国につながる生徒への支援体制



進路実現に向けた指導の充実

- 日本語学習会（毎週月曜日：14時30分～17時30分）
- 長期休暇期間学習会（週1回目安）
- 学習相談会（不定期）
- 生徒会主催学習会（定期テスト前）

〈学習内容〉

- 英語技能検定試験の対策（準2級～1級）
- 日本語能力試験（J L P T : Japanese Language Proficiency Test）
対策
- 定期テストのための学習
- 大学受験のための学習（小論文、面接練習等）

JLPT（日本語能力試験）の指導

Road to 2021⁺

漢字道場

—Kanji Dojo—

にゅうもんしゃもと
入門者求ム！

◆ 対象者：2021年度日本語能力試験 受験者 および 希望者

◆ 内容：基本的な漢字の反復練習（漢字一つ一つの意味を理解しながら覚える）

次の2つのコースから選択してください。

・Aコース（実践コース）

日本語能力試験N3レベルの漢字 377字 ex) 使 他 代…絡 以 似

日本語能力試験N2レベルの漢字 388字 ex) 訓 許 訪…舞 張 耕

・Bコース（基礎からコース）

日本語能力試験N5レベルの漢字 80字 ex) 日 月 火…糸 車 力

日本語能力試験N4レベルの漢字 165字 ex) 朝 昼 夜…東 西 南

日本語能力試験N3レベルの漢字 377字 ex) 使 他 代…絡 以 似

日本語能力試験N2レベルの漢字 388字 ex) 訓 許 訪…舞 張 耕

各レベルの漢字を20個ずつ、繰り返し書いて覚えます。

練習用紙1枚（40個）を終えるごとに提出し、次の用紙を受け取ってください。

定期的に、腕試しの練習問題に取り組むことができます。

◆ 申込方法：年次担当者に、希望のコースを伝えてください。

Road to 2021⁺

漢字道場

—Kanji Dojo—
スタンプカード

年	組	番	年 月 日入門
年	組	番	
年	組	番	
年	組	番氏名	

N5レベル

一週目	20	40	60	80
二週目	20	40	60	80

N4レベル

一週目	20	40	60	80	100	120	140	155
二週目	20	40	60	80	100	120	140	155

N3レベル

一週目	20	40	60	80	100	120	140	160
二週目	180	200	220	240	260	280	300	320
三週目	340	360	377					
四週目	340	360	377					

N2レベル

一週目	20	40	60	80	100	120	140	160
二週目	180	200	220	240	260	280	300	320
三週目	340	360	380	388				
四週目	340	360	380	388				

確認テスト

	N5レベル	N4レベル	N3レベル	N2レベル
1回目	/	/	/	/
2回目	/	/	/	/

漢字練習用紙 No. 1 年 組 番 氏名

おんよみ 音読み	くんよみ 訓読み	よみ例 用例	⑤	④	③	②
シ	つか(う)	しんせんなやさいをつかう 新鮮な野菜をツかう				
タ	ほか	ほかのいけんはありますか ホカの意見はありますか				
ダイ、タイ	か(わる)、か(える)、よ、しろ	どうばんをかわる 当番をかわる				
カ、ケ	ば(ける)、ば(かす)	かがくのべんきょうをする カ学の勉強をする				

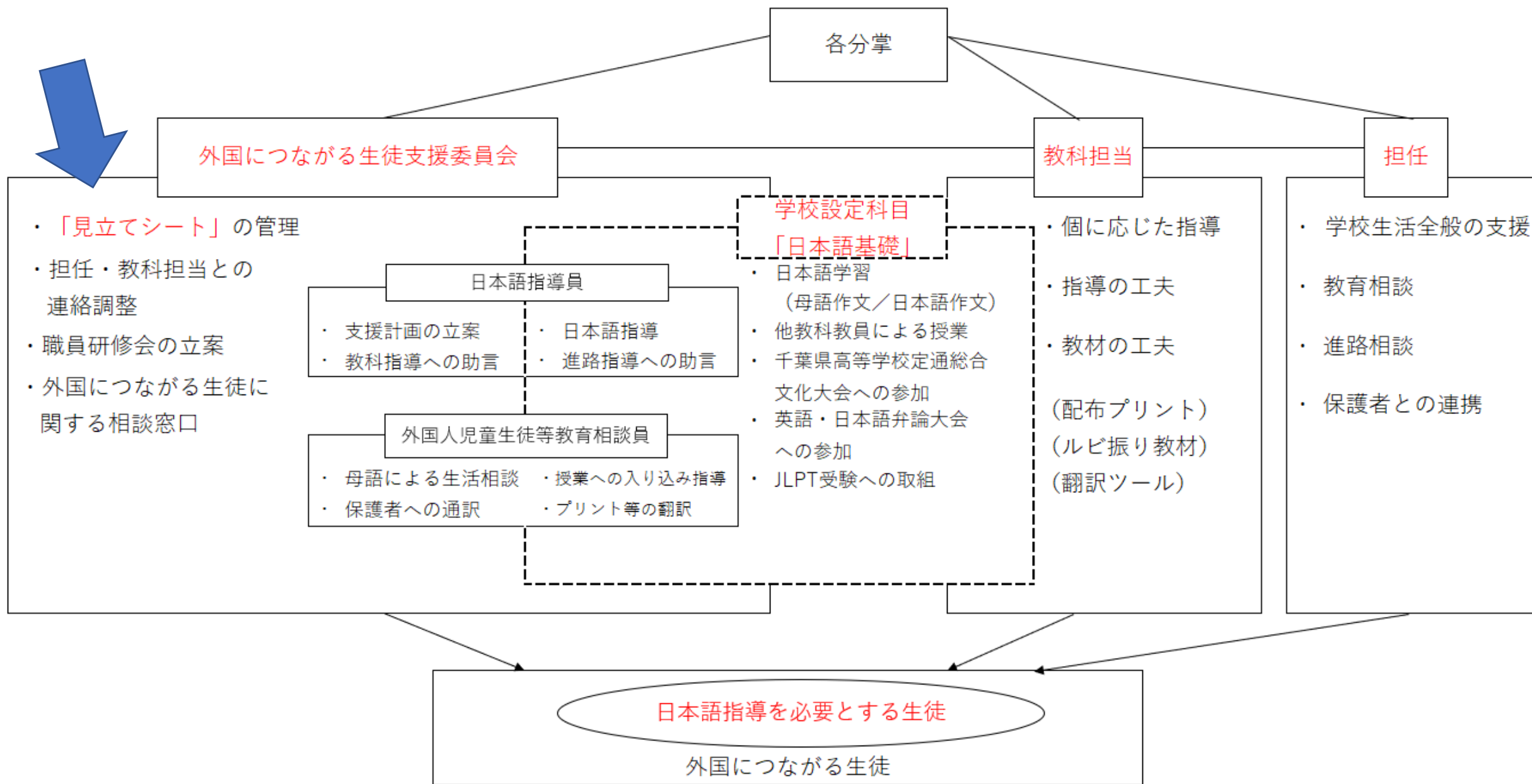
漢字練習のために、テキストに沿った練習用紙を作成して配布

JLPT指導具体例

- JLPT資格取得での単位認定化
(N1・3単位、N2・2単位、N3・1単位)
- 教員へのJLPTに関する情報提供
⇒ 生徒の日本語力をJLPTの程度で共有
- 模擬試験の実施 (JLPT4級～2級)
- 生徒へのJLPT学習の意識づけ ⇒ 受験を積極的に進める
(進学する場合／就職する場合)
- 漢字学習の一環として、JLPT学習の時間を設定

3級以上：就職
2級：専門学校、大学
1級：大学院

外国につながる生徒への支援体制



「見立てシート」記入例

外国につながる生徒の
言語環境、学習環境、
生活環境について記入

担任が作成

見立てシート（1年組 番、2年組 番、3年組 番、4年組 番）				
名 前	ふりがな			
	通称 本名（「在留カード」の通り）			
生まれた国		母語		
滞在歴	年齢	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20		
	居住地			
	在籍校歴 (学習言語)			
在留の種類（滞在ビザの種類）	<input type="checkbox"/> 永住者 <input type="checkbox"/> 家族滞在 <input type="checkbox"/> 定住者 <input type="checkbox"/> 特別永住者 <input type="checkbox"/> 留学 <input type="checkbox"/> 永住者の配偶者等 <input type="checkbox"/> 日本人の配偶者等 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
生徒の日本語力	- 自分の思ったことが話せる	話せる	----- ----- 話せない	
	- 授業で先生の言ったことがわかる	わかる	----- ----- わからない	
	- 学校の教科書が読める	読める	----- ----- 読めない	
生徒の母語の様子	- 母語で日常の会話ができる。	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない		
	- 母語での教育を受けたことがある。	<input type="checkbox"/> ある（ まで） <input type="checkbox"/> ない		
	- 母語で書かれた文章を読むことができる。	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない		
	- 母語を使って文章を書くことができる。	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない		
日本での将来の展望	日本に永住 ◆進路希望（進学・就職・その他）		帰国予定（約 年後）	
夕食について（夜間部のみ）	食べる	食べない・一部食べない（ ） (理由：アレルギー・宗教・その他)		
日本 保護 者の 状況	家庭内の言語	母語のみ	日本語のみ	両方
	学校からの保護者宛文書	読める	ひらがなで読める	読めない
	面談や説明会等での通訳	必要（ ）語	どちらかといえば必要	不要
	日本語を話せる家族	いない	いる（)	例：父、母

備考(親の教育観や本人の学力の程度、進路の希望など)

「見立てシート」の活用

- 外国につながる生徒に対する教師の「見立ての力」をつけるため
- 外国につながる生徒の情報を共有化するため
- 進路指導（生活指導）を充実させるため
- 教科指導を充実させるため
- ICT活用に結び付けるため

「見立てシート」の
記入が目的ではない

見立てシート（1年組番、2年組番、3年組番、4年組番）

名前	ふりがな	
	通称	本名（「在留カード」の通り）
生まれた国		母語
滞在歴	年齢	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
	居住地	
	在籍校歴 (学習言語)	

生徒の学習言語及び教科
学習言語能力を知るための
大切なポイント

母語の習得状況
も大切なポイント

在留の種類（滞在ビザの種類）		<input type="checkbox"/> 永住者 <input type="checkbox"/> 家族滞在 <input type="checkbox"/> 定住者 <input type="checkbox"/> 特別永住者 <input type="checkbox"/> 留学 <input type="checkbox"/> 永住者の配偶者等 <input type="checkbox"/> 日本人の配偶者等 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
生徒の日本語力		・自分の思ったことが話せる	話せる	<input type="text"/>	話せな
		・授業で先生の言ったことがわかる	わかる	<input type="text"/>	わからな
		・学校の教科書が読める	読める	<input type="text"/>	読めな
生徒の母語の様子		・母語で日常の会話ができる。	<input type="checkbox"/> できる	<input type="checkbox"/> できない	
		・母語での教育を受けたことがある。	<input type="checkbox"/> ある（ まで）	<input type="checkbox"/> ない	
		・母語で書かれた文章を読むことができる。	<input type="checkbox"/> できる	<input type="checkbox"/> できない	
		・母語を使って文章を書くことができる。	<input type="checkbox"/> できる	<input type="checkbox"/> できない	
日本での将来の展望		日本に永住 ◆進路希望（進学・就職・その他）		帰国予定（約 年後）	
夕食について（夜間部のみ）		食べる	食べない・一部食べない（ ） （理由：アレルギー・宗教・その他）		
日 本 語 状 況 の 保 護 者 の	家庭内の言語	母語のみ	日本語のみ	両方	
	学校からの保護者宛文書	読める	ひらがなで読める	読めない	
	面談や説明会等での通訳	必要（ ）語	どちらかといえば必要	不要	
	日本語を話せる家族	いない	いる（ ）	例：父、母	
備考(親の教育観や本人の学力の程度、進路の希望など)					

指導の前提となる見立て

見立てシートに記入をしてみる

- ・見立てに必要な情報を知る
- ・埋められなかった情報に気づく
- ・必要な情報を得るために必要なことは何か
- ・情報の変化に敏感になる
- ・長期的視野に立ち、現時点で必要な指導の見極め

生徒への指導の充実

見立ての際の洞察力・
共感力・分析力を育成
することが重要

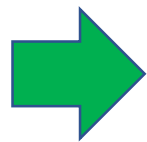
得られた情報を
多角的に分析

教員間での情報
の共有

「見立てシート」の情報共有化

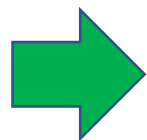
閲覧件数
伸びず

紙媒体



情報の更新に手間がかかる
情報の閲覧に手間がかかる

データ化

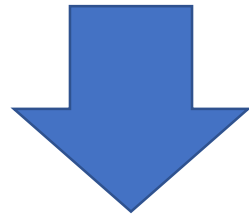


教員サーバーからアクセス可

閲覧件数が
伸びる

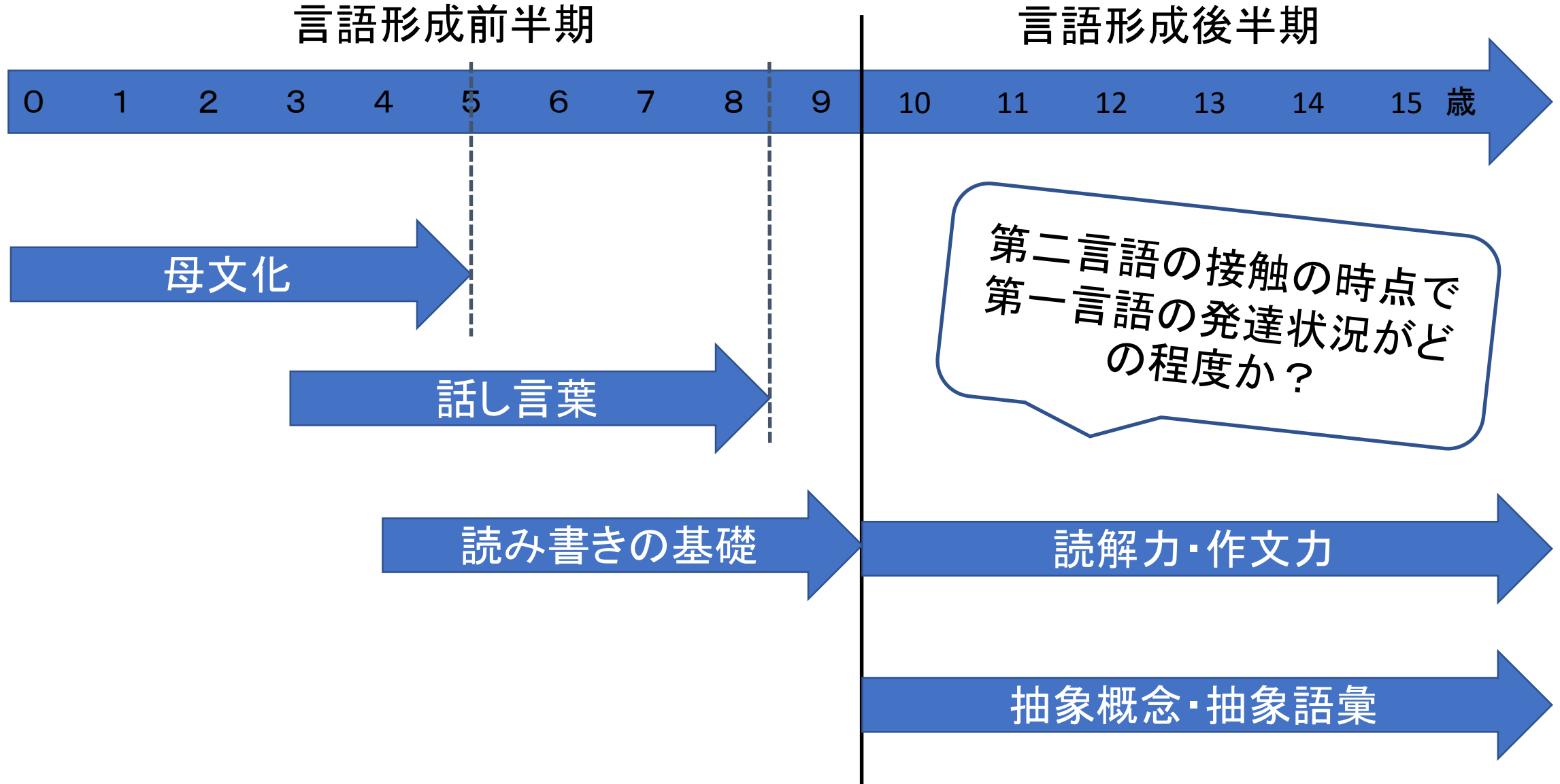
「見立てシート」活用のための職員研修

- 外国につながる生徒の現状と課題
- 第二言語習得論
- 在留資格

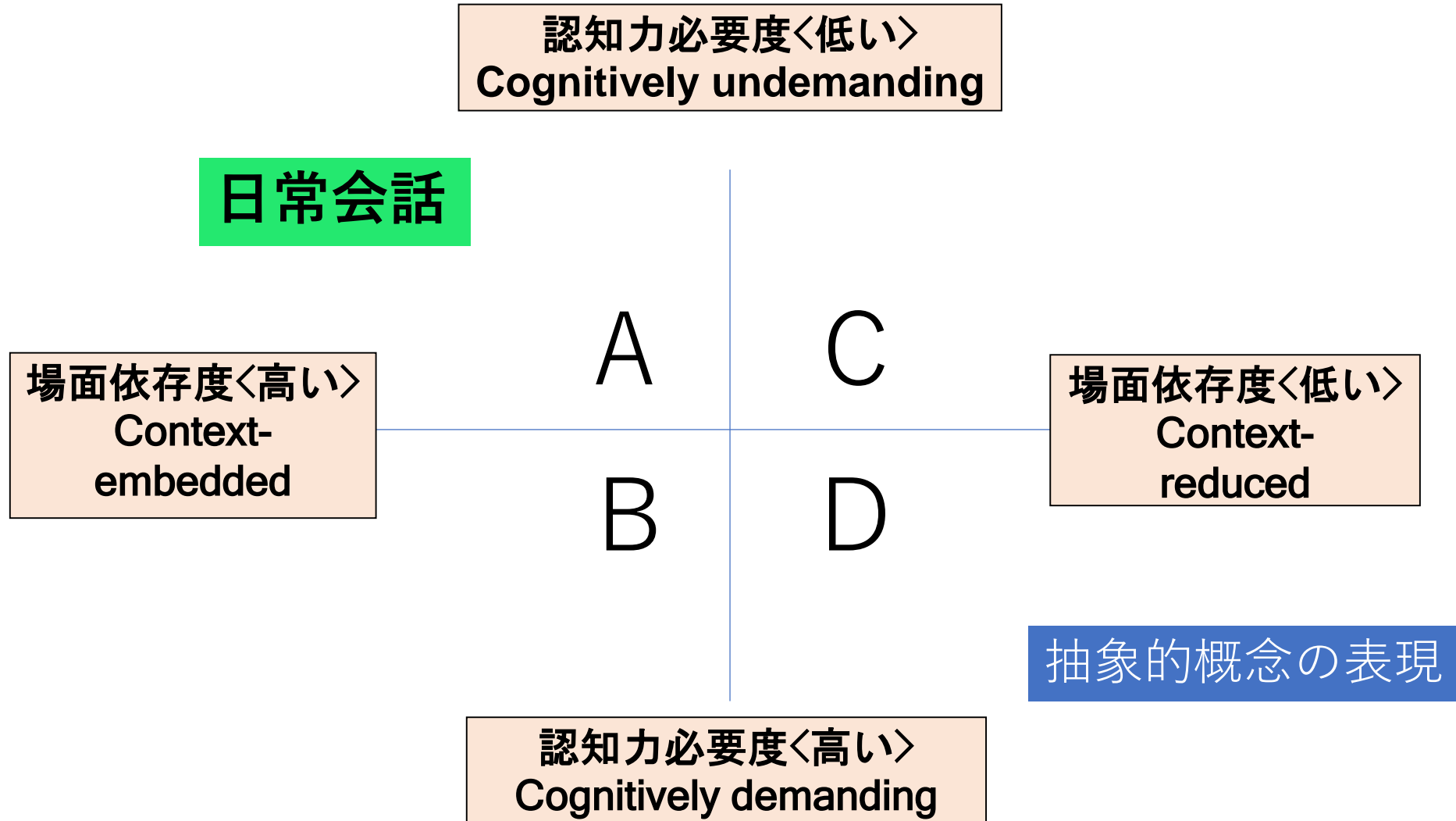


新年度新たに赴任する職員研修の場で実施

〈年齢と第一言語習得との関係〉



言語活動の4領域



共有規定能力モデル (Common Underlying Proficiency, CUP) カミンス2言語共有説 (冰山説)

転移が見られる領域

- ①概念的要素
- ②メタ認知・メタ言語ストラテジー
- ③会話でのコミュニケーションスタイル
- ④特定の言語要素
- ⑤音韻意識



表層面では二つの言語、深層面では共有。例えば、表記法は二つ、読む/書く/考えるプロセスは一つ
Cummins, J. (1984) "Bilingualism and Special Education" より作成

児童生徒の滞日年数と言語能力との関係

◇習得にかかる時間が言語の3面によって異なる

1) 会話の流暢度 (CF=BICS* 生活言語) **約2年**

2) 弁別的技能 (DLS**) スキルによって異なる

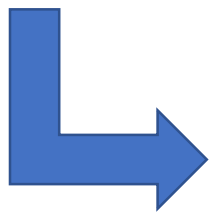
* ひらがな・カタカナ・漢字・文法など

3) 教科学習言語能力 (ALP=CALP*** 学習言語)

・ 8歳以前に入国の場合 **7 - 10年**

・ 8歳以降に入国の場合 **5 - 7年**

(Cummins,1996/2001)



- ・ 日本語が話せるようになっても、日本語で学習できることにはならない。
- ・ 自国で学校教育を受けていない子どもは、日本での学習が定着するのに時間がかかる。

在留資格（ビザ）

◆外国人が日本に入国・在留することを
日本政府が許可した資格

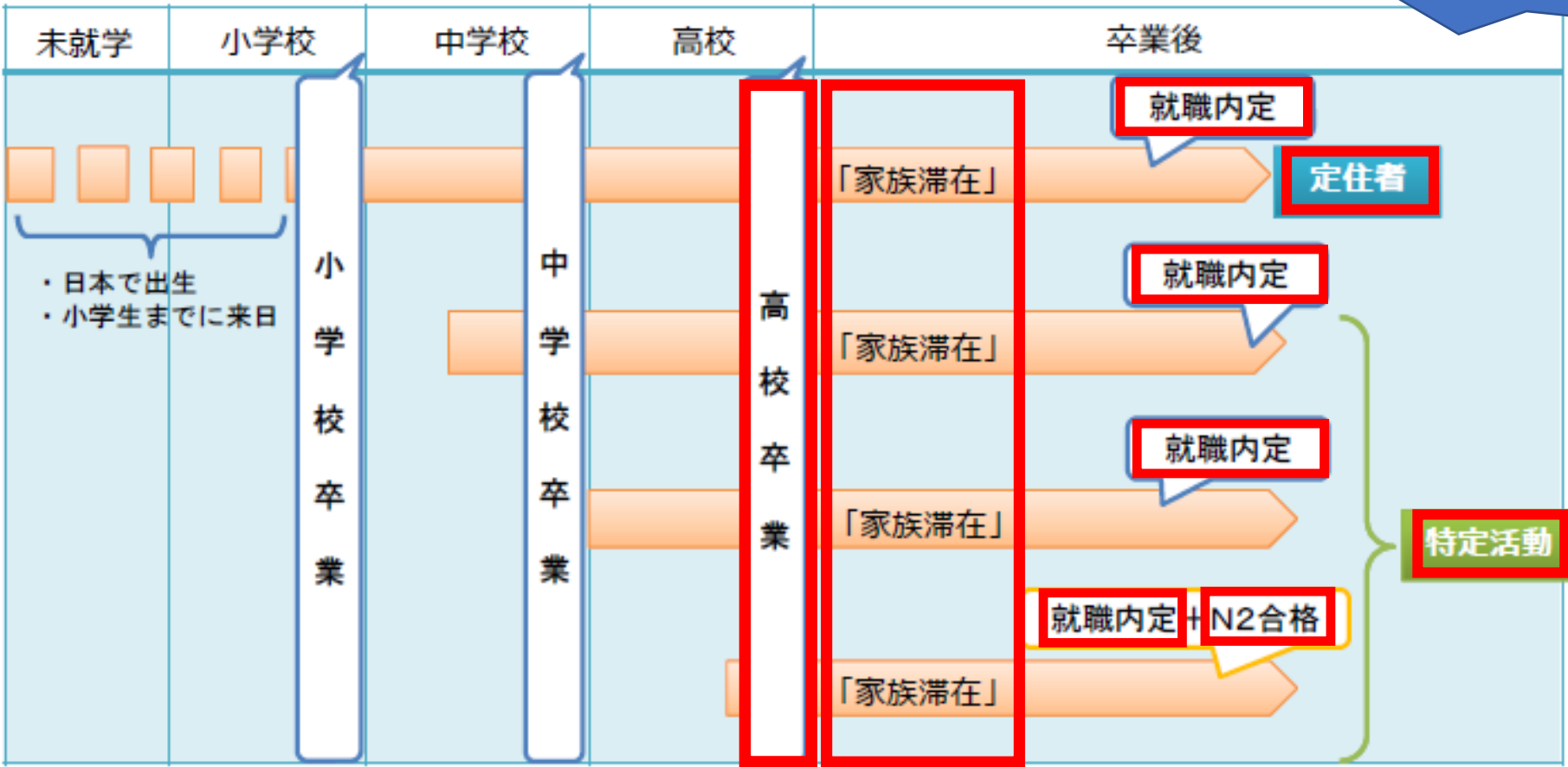
- ①就労が認められる在留資格（活動制限あり）
- ②身分・地位に基づく在留資格（活動制限なし）
- ③就労の可否は指定される活動によるもの
- ④就労が認められない在留資格

高等学校等卒業後に就労を希望する外国人に係る在留資格の取扱いについて

主なルート

- 定住者** 1 7歳までに入国+小学校卒業+中学校卒業+高校卒業+就職内定
- 特定活動** 1 7歳までに入国+ { 高校入学(編入を除く)→卒業
高校編入→卒業+日本語能力N2 } +就職内定+親(日本)

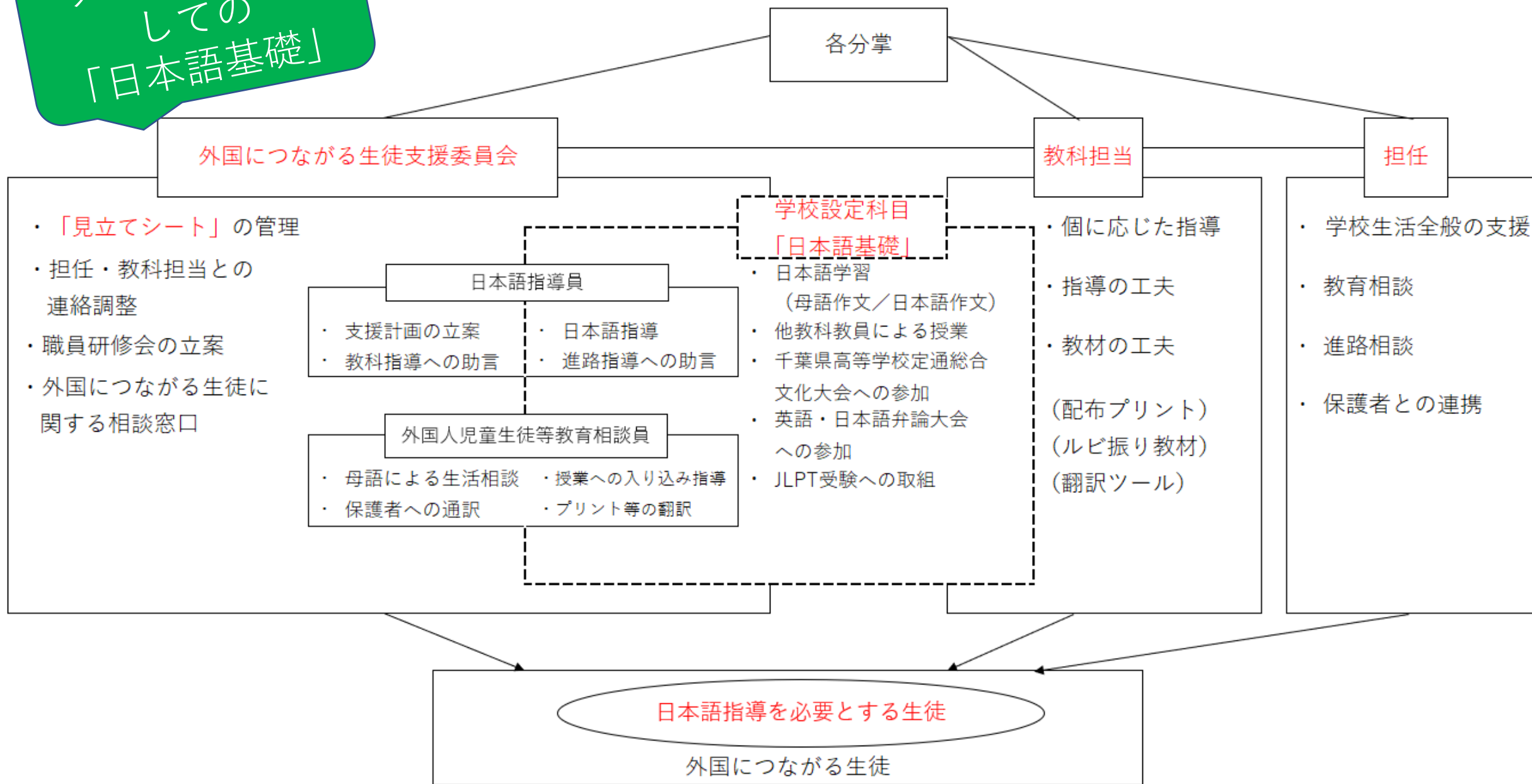
ビザの種類により、
進路の選択が限定され
る可能性あり



※「家族滞在」以外の在留資格で在留している者でも、「家族滞在」の在留資格該当性がある場合（「留学」等）は本取扱いの対象となる。

外国につながる生徒への支援体制

メルマークと
しての
「日本語基礎」



外国につながる生徒への取組の効果

- 教員の「意識の変化」
- 支援体制の構築
- 情報の共有化
- 生徒同士の交流（勉強会等）の活発化
- 外国につながる生徒の学習意欲の向上

今後の課題

- 「日本語基礎」教材の設定
- 持続可能な支援体制の構築
- 進路実現を見据えた個別の指導計画
- 日本語力が不足している生徒への効果的な学習指導の在り方
- 教員間の「見立てる力」の差

〈参考資料〉

Cummins&Swain(1986)言語発達能力モデル

ジム・カミンズ著 中島和子著 (2011) 『言語マイノリティーを支える教育』 慶應義塾大学出版会

中島和子(2003/2010)[JHLの枠組みと課題-JSL/JFLとどう違うか] 『母語・継承語・バイリンガル教育研究会』 プレ創刊号1-15引用

文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況に関する調査
www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/06/1386753.htm より引用

ご清聴ありがとうございました

日本語基礎受講生のL1能力（6か年分） 〈生徒の自己評価〉

N=99

生徒へのL1能力に関する質問項目

1. 話すこと : 自分の思ったことが話せるか
2. 読むこと : 教科書が読めるか
3. 書くこと : 作文が書けるか

読み書きができない
ケースとして、第3国
で学習したことが要因
の場合もある。

	話すこと	読むこと	書くこと
全然できない	1	7	6
あまりできない	3	3	5
だいたいできる	10	5	9
よくできる	85	84	79

日本語基礎受講生の日本語（L2）能力（N = 99） 〈生徒の自己評価〉

生徒へのL2能力に関する質問項目

1. 話すこと : 自分の思ったことが話せるか
2. 聞くこと : 授業中先生の言っていることがわかるか
3. 読むこと : 教科書が読めるか
4. 書くこと : 作文が書けるか

5割以上の生徒が、先生の話すこと、教科書が理解できずに授業に参加している可能性あり

	話すこと	聞くこと	読むこと	書くこと
全然できない	6	8	24	15
あまりできない	31	40	45	46
だいたいできる	46	44	25	29
よくできる	16	7	5	9